

子どもの姿をどのように園内で、または保護者と共有し「明日への期待」へ繋げていますか？「科学する心」とは、どのような姿なのか、保護者に具体的な姿として伝わることで、理解が得られ、園と家庭が繋がりと、子どもの体験がより豊かになることが期待できます。子どもたちの「明日への期待」を、保育者も保護者も共有し、「科学する心」が育まれる姿について、発信の工夫をしている事例をご紹介します。

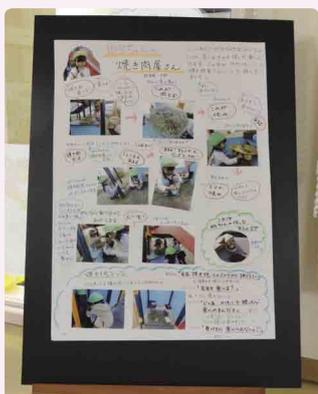
保護者と園…保護者が子どもの姿を理解することにより、園の生活と家庭が繋がりと、子どもの遊びは広がりと深まったりします。「科学する心」とは、どのような姿なのか具体的に伝わります。

保護者と子ども…子どもの成長を具体的に知ることにより、子どもとの話題になり、認める・受け止める姿に繋がります。他の学年の情報から、子どもの成長の見通しがもて、安心感に繋がります。

子どもと子ども…他のクラスの姿、友達の姿を知ることや共通の話題になることが期待できます。そこで得た情報を自分の遊びに取り入れたり、友達の良さに気付いたりすることに繋がります。

保育者と保育者…様々なクラスの子どもの姿を共有することで、園の子どもたちの「科学する心」の変容や育ちを理解することができます。

①



一人の子どもにスポットを当てて

Aちゃんが、考えた遊びの楽しさ・良さが画像とコメントで示されている。年度末までに、全員のボードフォリオを掲示している。

②



振り返る・成長が見える

保護者が見たい時に、いつでもゆっくり見ることができるよう、過去の掲示をクリアファイルに入れておく。これらは卒園時に、A4判にして各家庭に贈られている。

③



子どもの“気付き”の姿に特化して

写真とコメントによる掲示、クラスごとにファイリングし、いつでも保護者が見ることができる。子どもの成長を知ることができる。個別ファイルは、家庭内で共有できるように、貸し出しも行っている。

④

川をつくりたい… (5歳児)

「かわをつくらうよ」と、川づくりが始まりました。今まで砂場でしたが、5歳児だけで取り組める広い場を考えて芝生の丘からつくることを提案しました。砂場や園庭でいるときは遠い、芝生の丘は斜面です。「これ置いても転がるねん…」と困った様子でした。手で押さえたり木切れを支えにしようと思いますが、なかなか上手くいきません。



「もう一つのビールケースで押さえたいやんか」という友達からの提案で斜面に倒れずにおくことが出来ました。平坦な部分にたどり着くと「これで楽につくれるわ」と一安心。「コースを曲げてみようよ」しようごを使ってゴールをつくったところで片付けになりました。



タイムリーに広く公開 (ホームページ)

子どもの姿を、写真とコメントで園のホームページに公開する。保護者だけでなく、地域の方へも広く発信している。